

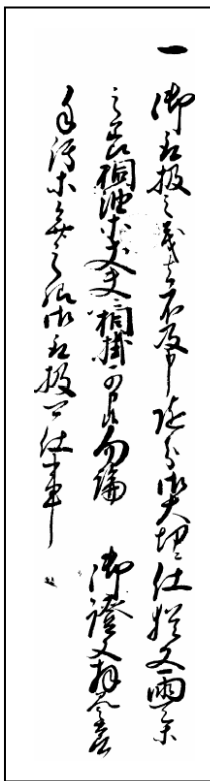
全体の大意をつかんで仮説を立てる



(t)

前回の続きです。今回も難問続きです。最初の は「手」が「干」でしょう。次の は、一見すると「傳(伝)」() という字に見えます(なお、この (伝)は頻出する文字です)。次の は、もう既に3回目になった「等」ですので、「^{てつだいなど}手伝等」と読めそうです。

次の も、一見すると第9回で出てきた「 (弁)」に見え、次の は「之」、最後の は、第13回、第14回でも出てきた「様」ですので、「手伝等弁之様」となりそうなのですが、読み方も意味もよくわかりません。



そこで、最初から見直してみると、「伝」と思っていた は「イ」ではなく「」にも見えます。^{つくり} 旁を見直してみると、 という感じです。したがって「伝」ではなく、「汚」という字にも見えます。「^{てよこれなど}手汚等」なら意味も通ります。そこで、 も「弁」ではないか、と疑うことになりました。

この文章は、第21回から続いています。が、「御状箱」の取扱ごじょうばこ とりあつかいについて取り極めきがされています。第26回からこの条文に入っていますが、「取扱のことは、言うまでもないことだが、随分大切に取り扱い、雨天などの時は桐油などをしっかりかけるように。勿論、御証文を拝見するときは手汚れなど...」という大意ですから、「手汚れなど」「ないように」というふうにつきそうです。すると、「手汚れなど」「^{これなきよう}無之様」(第24回で「有之」「^{これあり}無之」をやりました)ではないか、という仮説が立てられ、 を「無」と読んで矛盾しないかどうか、がポイントになりますが、『くずし字用例辞典』(近藤出版社)などで確認すると、「無」には のような崩し方もあるようです。まとめると「^{てよこれなどこれなきよう}手汚等無之様」となります。



最後に(u)はほとんど復習ですが、「御取扱可仕事」です。 を「可」と読めれば、難しいところはないと思います。